令和3年度入学式 式辞

新入生の皆さん入学おめでとうございます。宮崎国際大学全教職員を代表してお祝いを申し上げます。

皆さんは新型コロナウイルスによる様々な制約や警戒のなかで勉強され、みごと入学されましたことに敬意を表する次第です。

そして、皆さんの努力を愛情深く支えてこられたご家族や関係者の皆様に心より、お礼とお祝いを申し上げます。

これからも当面は、不自由な学生生活を強いられることになるかも知れませんが、それでも、前向きに取り組み、如何に自分を磨き上げるかに専念して頂きたいと思います。

本学が立地するこの地は、儒学者である安井息軒先生の父滄州先生が、私塾である「明教堂」を開き、儒学を教えられた地です。安井息軒先生をはじめ、明治初期の日本の近代化実現に向けて、人材を送り出したこの地は、まさに「学びの丘」であります。先人たちのこの清武から学問を発信したいという願いは、190年の歴史を経て、今もなお脈々と受け継がれています。

本学の創設者大坪久泰先生は、平成6年、世界のそれぞれに異なった文化を、グローバルな視点から見つめなおすため、「比較文化学」という学問を念頭に、「礼節・勤労」を建学の精神とした宮崎国際大学を創設されました。「礼節・勤労」の大きな願いは、地球が平和で、全ての人がお互いを尊重し合う社会が築かれていくことです。「礼節」の精神では、自他の人間性を尊重し、自らを律し、他者の立場に立って物事を考えることをめざしています。さらに「勤労」の精神では、心身を労して全てのことに積極的に努力する、何事にも真摯に取り組むということをめざしています。このような人間としてのあるべき姿を追求しつつ、皆さんは学問を学びます。

現代は、グローバル社会と情報化社会です。政治・経済・文化など、さまざまなレベルで国境を越えたやり取りが行われるのは当たり前になっています。新型コロナウイルスが発生からわずかな期間で全世界に拡散したことは、グローバル社会を実感できる一つの例かも知れません。また、本学にも多くの外国人留学生がいます。グローバル社会の中では、自分の国だけで生活が成り立たなくなっており、各国は相互に依存し、お互いに助け合わなければなりません。今回の新型コロナウイルスのワクチンも他国に依存しなければなりません。

ご存じかも知れませんが、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の中では「世界中の、あらゆる形の貧困を終わらせる」ことが 17 の目標の一つ目にあげられています。この「あらゆる形の貧困」とは、経済的な問題だけではなく、教育や就業機会を得られないこと、また、食料や水、病院、住居などの必要な物やサービスがない、あるいは受けられないことが含まれます。しかし、現在でも毎日の食べるものが手に入らない極度の貧困層は約 5 ～ 7 億人いると言われています。

グローバル社会と言うイメージはあたかも発展して、活気のある世界と言う印象を持たれるかも知れませんが、このような格差のあるグローバル社会も心に刻んでいただきたいと思います。そして、本学で学ばれた教育が、将来的に少しでもその解決に役立てればと願っています。

また一方の、情報化社会とは、この二十年余りの間のデジタル革命によって、全世界がインターネットでつながれたサイバー空間の中に存在する社会と言えます。人工知能の技術の進歩は私たちの生活の中にすでに数多く浸透しています。

このようなグローバル社会、情報化社会では、多種多様な価値観や文化を持つ人々の交流において、文化上の衝突や摩擦、価値観の相違を生み出す懸念もあるでしょう。その代表的な例が、世界的な環境問題と地球の温暖化だと思います。インターネットでの詐欺、個人情報や企業データの盗難、政府へのサイバー攻撃などの問題も多々あります。

社会がグローバル化して行く、あるいは情報化していく中で起こる様々な問題を解決するには、少なくともダイバーシティが重要だと考えられています。このダイバーシティこそ、本学の建学の精神の一つである礼節なのです。ダイバーシティは辞書では、「組織において、国籍や性別、年齢などの違いを受け入れ、それぞれの多様な価値観や発想を活かすこと」と書かれています。当然ですが、そのためには、高い語学力やコミュニケーション能力が欠かせません。残念ながら、日本人の英語力は百六十三 163 カ国中 135 位、アジア内では 30 カ国中 27 位と非常に低い水準です。宮崎国際大学では、皆さんに英語力とコミュニケーション能力を身につけさせ、リベラルアーツ、すなわち幅広い知識を涵養させて、グローバル社会で活躍できる人材に育てます。また留学生との交友や留学を経験することで、さらにそれらの能力が身に付くと思います。

ところで、大学では、皆さんがこれまで受けて来た中学校、高等学科校の教育方法とは異なるスタイルでの教育を受けることになるかも知れません。いままでの受動的な学びの姿勢、つまり先生が授業の準備を事細かく準備して、きめ細かく教えることから一転し、学生の皆さんが自ら疑問を持ち、自ら調べ、自ら解答を出すという能動的な学び

の姿勢にリセットする必要があるのです。教員は皆様をサポートして的確なアドバイスをすることになります。つまり教員主導から学生主導に変わることを理解してください。

私は、これまで45年間の研究人生を送ってきました。専門は脳の本能に関わる研究です。皆さんには集団欲と言う本能があります。集団欲は家族や友達、あるいは社会に参加しているときに満たされるものです。そのため、孤独や仲間外れは集団欲が満たされず、大変苦しい精神状態に追い込まれます。一部の動物、例えば肉食動物では集団欲の代わりに攻撃欲があります。集団欲と攻撃欲は表裏の関係で、集団欲が強ければ攻撃欲は抑えられ、攻撃欲が強ければ集団欲は抑えられます。

さて、みなさんはこれまで、家族や友達が集団欲を満たしてくれましたが、一部の方は家族や友達から離れて寂しい思いをするかも知れません。ぜひ友達を作って集団欲を満たしてください。また、多くの皆さんはすでに反抗期に入っていると思います。この反抗期は自立するために、集団欲から抜ける状態で、一時的に攻撃欲が前面に出てきます。保護者の皆様は子供が反抗期にある時は成長して自立しようとしている時期と理解してください。

ところで、学生の皆さんに、知っておいて頂きたいのは、ネットで集団欲を満たすのは、錯覚であることです。インターネットでのサイバー空間社会へ参加しているような感覚は決して本当の集団欲を満たす社会ではなく、むしろ自分の思考力や判断力、あるいは推理力などを低下させている可能性が多いことです。ぜひ、現実の社会での集団欲を満たし、思考力や推理力を養ってください。

皆さんは「三つ子の魂百まで」ということわざを耳にしたことがあると思います。これは、幼少期が人格形成に最も重要な時期であるという考え方で、世界で共通した考え方です。とりわけこの時期に愛情を注がれることが非常に重要とされています。また、幼少期、児童期の教育は人格形成と同時に様々な能力、特に結晶性能力の基盤作りに重要と考えられています。結晶性能力とは、これから個人が経験や教育、学習を通して獲得していく能力で、洞察力、理解力、あるいは推理力などを言います。宮崎国際大学の児童教育学科に入学された学生の皆さんには、このような重要な幼少期・児童期の子供たちを預かることへの責任を果たせる優秀な保育士や教員に成長して頂きますようしっかり勉学に励んでください。

最後になりますが、私は、45年間の研究人生の中で、自分を戒める、あるいは自分を励ますためにたくさんのことわざを作って来ました。紹介するのは、大変僭越で、幼稚かも知れませんが、少しでもお役に立てればと思い、幾つかを紹介することにしました。

- ・人の言うことに耳を傾けない人は、自分の言うことに耳を傾けてもらえない。
- ・人は謙虚さを失ったとき、人格も失う。
- ・頭を下げるのは一時の恥だが、下げないのは一生の恥だ。
- ・相手を打ち負かして喜ぶ時は、自分自身には負けた時だ。
- ・挑戦する勇気を持てば、失敗を恐れない人間になれるかも知れない。
- ・弱点を克服できないなら、強みを生かす道を探せば良い。
- ・自分はこのくらいで駄目になる人間じゃない。もっと試練を与えて見ろ。

皆さん、寂しさに打ち勝つ強さ、失敗をおそれない強さ、質問することを恥じない強さを持ち、どん欲に学び、大学で必ず自分の将来の基盤を作ってください。

本日は、入学、おめでとうございます。

令和3年4月3日

宮崎国際大学学長 村上 昇